

機関番号：24402

研究種目：新学術領域研究

研究期間：2008～2010

課題番号：20200040

研究課題名（和文） キメラ化する社会と芸術の公共性

研究課題名（英文） Publicness of arts in chimeral society

研究代表者

平田 オリザ (HIRATA ORIZA)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特別研究員

研究者番号：90327304

研究成果の概要(和文):本研究では、アーツマネジメントを社会的弱者の現場において活用し、社会包摂の一環に組み入れることによって、文化による社会の再構築を行うという、アーツマネジメントの新しい意味と作用を見出した。また、それを支えるシステムとして、大阪市立大学を日本のハブ、チュラロンコン大学をタイのハブ、ガジャマダ大学とインドネシア芸術大学の共同をインドネシアのハブとし、多核的な国際ネットワークの基礎が構築できた。

研究成果の概要（英文）: This study discovers a new meaning and effect of art management to restructure a society through culture using art management in the position of socially disadvantaged people by incorporating it as part of the society. And in order to maintain this study, the joint research system based on mutual exchange was materialized by building multilateral international networks, in which Osaka City University becomes Japan's hub, Chulalongkorn University becomes Thailand's hub, and the combination of Gadjah Mada University and Indonesian Institute of Arts becomes Indonesia's hub.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2008年度 | 5,200,000  | 1,560,000 | 6,760,000  |
| 2009年度 | 8,100,000  | 2,430,000 | 10,530,000 |
| 2010年度 | 10,000,000 | 3,000,000 | 13,000,000 |
| 年度     |            |           |            |
| 年度     |            |           |            |
| 総計     | 23,300,000 | 6,990,000 | 30,290,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学／芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：アーツマネジメント、社会的包摂、文化政策、多文化（多民族）共生、ソーシャル・ガバナンス、コミュニティ・デベロップメント、キメラ化、公共性

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学術上の背景

本研究の目的は、近年興隆してきた創造都市論と、政治地理学や社会包摂論を組み合わせることによって、新たなアーツマネジメント論を構想し、それを多くの実践的な舞台のなかで検証し、琢磨していくことにより、学術上の重要な課題を提案することにある。C. Landry "The Creative City" (1995)、佐々木雅幸『創造都市への挑戦』(2001)などが参照される。グローバル化や新自由主義政策による構造的格差の問題を、芸術の創造的な作用を通して解決し、社会的に排除されている人々の自立を支援しながら、新たな文化産業によって都市を再生していこうとするものである。その交差線である政治地理学では、資本による空間の生産とそれに対抗する空間的諸実践を論じた Henri Lefebvre "The Production of Space" (1991)、建築史の分野ながら公共空間におけるマイノリティ・アートの演出を意味づけた Dolores Hayden (1997) "The Power of Place: Urban Landscapes as Public History" (1995)などが参考となる。また、社会的包摂論では、中根光敏(編)『社会的排除のソシオロジ』(2002)、バラ+ラペール共著『グローバル化と社会的排除』(2005)、アマルティア・セン『不平等の再検討』(2005)などがこの分野の代表的研究として挙げられるが、我々の研究でめざす芸術文化との連繋という視点は希薄である。そして、本研究の受け皿であるアーツマネジメント論の分野では、社会的排除・包摂の問題と芸術学やアートマネジメント論の交差は弱く、コミュニティアート論に参照できる部分がある程度である。

### (2) 社会的背景

2008年にリーマン・ブラザーズの破綻によって、全世界的な金融破綻が生じた。それは

グローバル化の災禍の直撃であり、社会的格差や問題が大きく顕在化することとなった。その問題の解消は国家から地域社会に至るまで、緊急の課題となっている。本研究は、それに対してアーツマネジメントという観点から解消に挑むものである。アーツマネジメント研究は、現実の社会と直結する領域であるゆえに、その挑戦に相応しい学問分野である。文化の創造力でもって都市を再生させてゆくというのは、創造都市論における中核的アイデアであるが、文化産業創出に焦点をあてることによって社会的に不利なグループや実験的なものへの資金を縮小する傾向のある消費志向型の創造都市論ではなく、社会の底辺からの変革を促す、社会包摂型の新たな創造都市論の確立がいま求められているのである。

## 2. 研究の目的

本研究は、来るべき多民族社会(自治体)の時代に生起すると予測される様々な社会的問題を、芸術のもつコミュニケーション力によって解決、回避する方法と理論を究明し、実践に活かすことを目的としている。コミュニティにおける民族融和、多文化共生を構築するための理論的モデルを開発、提案するとともに、地方自治体、NPO、NGOならびに地域住民と協働し、コミュニティ型アートセンター開設など、市民と連動して解決してゆくシステムを構築し、問題の解決に資そうとしている。研究期間内に明らかにしようとしたことは以下の3点である。

\* 本研究の土台となるべき情報インフラを整備し(データベース化)、多文化共生型社会に向かおうとする際の芸術の位置づけに関する現状を、日本、アジア、欧米という3つの範疇

で明らかにする。

- \* 実際に芸術を投入した場合の成果と問題点をフィールドワークによって明らかにし、汎用性のある方法論的モデルを構築する。
- \* 多文化共生型社会を構築・維持するためのインフラとしてのアーツカウンシルの望ましいあり方を制度的な観点から明らかにする。また、それを大学、行政、市民の3者で支え得るシステムの枠組みを明らかにする。

### 3. 研究の方法

多文化（多民族）共生を志向する芸術活動に関するデータベース（場所、時、主体、方法、内容、聴衆、効果、音声画像記録など）作成に着手する。そういった研究上の情報インフラの整備のためには、国際的な連携が必要であり、ネットワークの整備もまた急務である。

フィールドワークは、ネットワーク整備の展開過程と呼応して、日本から、アジア、欧米へと広がってゆくが、特に重要なのは、欧米の先駆的な実践を参照しながらも、アジアの事例調査に大きな比重をかけることである。アジアでは、人間と自然（宇宙）、あるいは人間同士に固有の関係が築かれ、ひとつ紛争の解決にあたっては、欧米とは異なる手法をもっている。伝統的な知恵と結びついた形で、芸術の投入による社会問題解決が図られている。本研究の目的は、我が国の事情に即した理論と実践を構築することであるが、アジアの取り組みをつぶさに研究し、我々の理論、実践化へと効果的に取り込んでゆく。そこに、単にアジアでも欧米でもない、新たな汎用モデルが生まれる。

この過程に続くのが、研究成果の実践的な応用研究である。国内、海外での、本科研の研究者が直接かかわっている地において、新たなモデルに基づいたアートマネジメント

の実践を行い、その効果等を検証する。また、その活動のための社会インフラとして、地域アーツカウンシルの設立に向けた協議や提案を行う。

本研究では、10年先に起こるであろう社会問題を見越して計画を立てている。すなわち、当初の2～3年においては、情報インフラの確立、仮説的理論の構築、検証、解体、実践、再構築を、臨床的な現場で行い、将来のアーツカウンシル設立の準備を行う。そして、行政ならびに市民との協働によって、10年以内に第1号のカウンシルの設立をめざす。

研究スタイルとしては分業体制をとらず、特にフィールドワークは全ての研究者がともに取り組む。軸となるのは、代表者と分担者である。欧米・アジアの文化政策の現状をよく把握し、また自ら実践者として芸術の提供にも携わる代表者と、日本において政治地理的な観点から文化の空間的表象を研究する分担者の共同作業を通して、これまでに見ない交差領域が現れ、日本のみならずアジア各国の研究者が交わって、ひとつの研究共同体をなす。

### 4. 研究成果

本研究における3つの目的に沿って、その成果をここに記す。

(1) 研究の土台となるべきインフラの整備  
多文化共生型社会に向かおうとする際の芸術の位置づけに関する現状を明らかにすることは重要であり、そのためのネットワーク構築として以下のように注力した。

①H20年度：第3回アジア・アートマネジメント会議（大阪、テーマは「地域の声を結ぶ：アジアの包摂的アートマネジメントに向けて」）で、カンボジア、フィリピン、マレーシアからアートマネジメントの専門家を招き、関西地域の専門家をもまじえて、コミュ

ニティの構築や再生に関して、アートマネジメントの貢献できる領域、程度などについての議論を深めることができた(2009年2月)。また、ジョグジャカルタ、バンコクにて本研究と関連の深いテーマで第7回アカデミック・フォーラムを開催した(同3月)。これは市大と東南アジアのハブ大学(チュラロンコン大学、ガジャマダ大学、インドネシア芸術大学)のネットワークを実質化してゆく過程でもあった。

②H21年度：第4回アジア・アーツマネジメント会議(大阪、2010年3月)、第8回アカデミック・フォーラム(バンコク、ジョグジャカルタ、同3月)といった東南アジアとのネットワークの重点化とともに、当初の目的にあった欧米のアーツマネジメント理論の把握ということで、フランスの劇作家であるミシェル・ヴィナヴェール氏を招聘して、シンポジウム「グローバル経済と芸術」(大阪、同6月)を開催した。

③H22年度：第5回アジア・アーツマネジメント会議(バンコク、2011年1月)、第8回アカデミック・フォーラム(バンコク、ジョグジャカルタ、同3月)といった継続的な事業によって研究ネットワークはさらに強化された。また、チュラロンコン大学とは、共同編集によって「Journal of urban Culture Research Vol. 1」を発刊し、研究上のインフラの整備の一環となった。さらに、欧米との連携という点で、イタリアのボローニャにおける元ホームレスの仮面劇団の来日に合わせて、「アート&アクセス」というシンポジウムとパフォーマンス公演を開催した。ここでは、多文化共生社会において演劇が社会的包摂という観点から持ちえる意味についての議論が展開され、日本とヨーロッパにおける考え方の対照が争点となった。

(2) 実践を通じた方法論的モデルの構築

本研究では、以下のような実践的研究が行われた。

①H20年度：第1回「まちのコモンズ」(大阪、2008年11月)第1回「アート&アクセス」シンポジウム(大阪、2009年3月)。

②H21年度：第1回創造音楽祭(ジョグジャカルタ、2009年6月)、第2回「アート&アクセス」シンポジウム(大阪、同年9月)、第2回「まちのコモンズ」(大阪、同11月)、また、本研究の趣旨を市民と共有することを目的とする「地域のためのアートマネジメント講座」を立ち上げ、多民族社会における社会包摂的な芸術の役割に焦点をあてて活動しているアートマネジメントの専門家との実質的な議論を行った(大阪、2009年5月～2010年2月)。大阪市立大学附属病院でのアートプロジェクト(大阪、2010年2月)

③H22年度：第2回創造音楽祭(ジョグジャカルタ、2010年8月)、第3回「まちのコモンズ」(大阪、11月)、第3回「アート&アクセス」シンポジウム+公演(大阪、2011年3月)、大阪市立大学附属病院でのアートプロジェクト(大阪、2011年3月)。

以上の実践的なプロジェクトは、本科研の採択を機に開始されたものが多く、オリジナリティの高いものである。アプローチは多様であるが、公共性の保障に焦点をあてて取り組んだ。公共性は、格差や貧困など様々な困難を抱えている社会においては保障されるべき重要な課題である。誰でも参加できる社会をつくるためには、制度、慣習、意識などにおいてバリアや障壁を排除し、社会への接近可能性(accessibility)を高くすることが望まれる。本実践研究では、芸術文化がそういった働きに積極的な役割を果たし、同時に、新たな創造の機会にもなることを検証した。その成果の一部は、研究協力者である中川真編著の『これからのアートマネジメント』

ト』(フィルムアート社、2011)に反映されている。

### (3) 多文化共生型社会を構築・維持するためのインフラ等の提言

リーマン・ブラザースショック以来、日本においては世界各国と同様に未曾有の経済的困難に遭遇している。市民生活の困窮度も増すとともに、中央政府はもとより、地方自治体の財政は大きく圧迫され、経済政策、福祉政策に重点を置く一方、文化予算は削減されていく。つまり、文化政策は依然として二次的な領域にとどまっている。本研究では、そういう状況に対抗する空間の創成を視野に、政策的な提言を行おうとした。現状に対しては、市民的なレベルから集約される文化のソーシャル・ガバナンスに注目しながら、都市政策における文化政策の役割の重要性を主張しなければならない。ここでいう文化政策は、文化が経済や福祉と密接に結びつきながら、社会の最底辺の人々に力を与え、社会的格差を減少させていく社会構造の構築に寄与するものである。文化政策で重要なことは、文化の力を認識し、それを社会資本に生成する仕組みを構築することである。本研究において協同する大阪のアート系 NPO は、フィールド地である大阪市釜ヶ崎(西成区あいりん地区)において、元日雇いの高齢者、ホームレス、障害者とともにアートを通してコミュニティの再生をはかる活動を始めている。これらを持続的に保障するのが、政策的にはアーツカウンシルの設置である。本研究の代表者は、劇場法の制定を視野に入れながら、アーツカウンシルの実現に向けた提言を積極的に行うことによって、本研究での知見を社会化、共有化することに尽力している。それは、理論的研究と実践の高度な融合であるといえだろう。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 平田オリザ、ロボット演劇、日本ロボット学会誌、査読有、29-1、2011、35-38
- ② Takashi YAMAZAKI、The US militarization of a 'host' civilian society: the case of post-war Okinawa, Japan, *Reconstructing Conflict: Integrating War and Post-War Geographies*、査読有、1、2011、253-272
- ③ Takashi YAMAZAKI、The historical representation of place in the military base town of Koza: the "reassessment" of US military presence as a developmental resource\*, *Journal of Urban Culture Research*、査読有、1、2010、190-199
- ④ 山崎孝史、大山コザ市政と琉球列島米国民政府、人権問題研究、査読有、10、2010、5-22
- ⑤ Yamazaki T. and Kumagai M.、The acceptance of Political Geography in Japan: a citation analysis of the 'international' journal, *Geographical Review of Japan. Series B.*、査読有、82-1、2009、31-41
- ⑥ Takashi YAMAZAKI、Japan, G. H. Herb and D. H. Kaplan eds. *Nations and Nationalism: A Global Overview*, ABC-CLIO、査読無、4、2008、1748-1758

[学会発表] (計23件)

- ① Takashi YAMAZAKI、The cultural "reassessment" of inscribed militarism: the case of a U.S. military basetown in Okinawa, Japan, *Osaka-Illinois Symposium, the Center for East Asian and Pacific Studies* (招待講演)、2011.3.9、University of Illinois at Urban-Champaign, USA
- ② 平田オリザ、基調講演、ブカレスト大学日本研究学会(招待講演)、2011年3月6日、ブカレスト大学(ルーマニア)
- ③ 山崎孝史、「近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」研修会基調講演、学術成果の公共・国際化とオープンアクセスへの期待—人文社会科学系研究者の視点 国立情報学研究所、学術機関リポジトリ構築連携支援事業・領域3、2011年1月20日、大阪市立大学学術情報総合センター(大阪府大阪市)
- ④ Takashi YAMAZAKI、Space, subject, and political behavior at border: Okinawa as a double periphery、2nd International Symposium of the Global COE Program "Reshaping Japan's Border Studies (招待講演)、2010.12.5、Slavic Research Center, Hokkaido University, Sapporo
- ⑤ 平田オリザ、基調講演、全国国語教育研究大会(招待講演)、2010年11月26日、立命

館守山高校（滋賀県守山市）

⑥山崎孝史、政治・空間・場所—「政治の地理学」に向けて、人文地理学会大会（特別研究発表）（招待講演）、2010年11月20日、奈良教育大学（奈良県奈良市）

⑦平田オリザ、創造都市政策セミナー講演、文化庁 創造都市政策セミナー（招待講演）、2010年9月23日、横浜都市創造センター（神奈川県横浜市）

⑧平田オリザ、基調講演、大阪成蹊大 GP 成果報告会（招待講演）、2010年9月18日、大阪成蹊大学長岡京キャンパス（京都府長岡京市）

⑨平田オリザ、基調講演、国際表現言語学会（招待講演）、2010年8月5日、摂南大学（大阪府枚方市）

⑩平田オリザ、基調講演、日本語日本文化講座夏期セミナー（招待講演）、2010年7月17日、函館国際ホテル（北海道函館市）

⑪ Takashi YAMAZAKI、The production of territorial dispute from interterritoriality: the U.S. and the Senkaku Islands under the Cold War、International Geographical Union Regional Conference、2010. 7. 13、Dan Panorama Hotel、Tel Aviv、Israel

⑫平田オリザ、地域における劇場の役割、愛知アートマネジメント講座（招待講演）、2010年7月7日、名古屋市公会堂（愛知県名古屋市）

⑬ Takashi YAMAZAKI、"Japan was not a homeland we should return to" Okinawa and its obfuscatory nationalism、The Association of American Geographers 106th Annual Meeting、2010. 4. 17、Park Hotel、Washington、D. C.、USA

⑭ Takashi YAMAZAKI、The historical representation of place in the military base town Koza: the 'reassessment' of U.S. military presence as developmental resources、The 8th Academic Forum in Bangkok、2010. 3. 10、Chulalongkorn University、Bangkok、Thailand

⑮山崎孝史、基地の街コザにおける場所の歴史的表象—開発資源としての米軍駐留の「再評価」、日本地理学会、2009年10月24日、琉球大学（沖縄県）

⑯平田オリザ、芸術とグローバリズム、美学会 2009年度全国大会、2009年10月11日、東京大学（東京都）

⑰ Takashi YAMAZAKI、Global military deployment, urban protest and the framing of discontent: the case of Okinawa, Japan、The 21st International Political Science Association World Congress、2009年7月13日、University of Chile、Santiago、Chile

⑱平田オリザ、グローバル経済と文化政策、

大阪市立大学都市研究プラザ・フォーラム、

2009年6月14日、大阪市立大学（大阪府）

⑲平田オリザ、演劇の方法（含ワークショップ）、プリンストン大学 演劇シンポジウム、2009年5月2～3日、プリンストン大学

⑳ Takashi YAMAZAKI、United States in world affairs after Bush - Geopolitical and geoeconomic perspectives from abroad、The Association of American Geographers 105th Annual Meeting、2009年3月25日、Las Vegas、USA

㉑ Takashi YAMAZAKI、The militarization of a local community by the U.S. military presence: The case of pre-reversion Okinawa, Japan、The Association of American Geographers 105th Annual Meeting、2009年3月23日、Las Vegas、USA

㉒ Takashi YAMAZAKI、The impact of U.S. military presence on local politics in pre-reversion Okinawa, Japan、The 22nd Annual Political Geography Specialty Group Pre-conference、2009年3月21日、Las Vegas、USA

㉓山崎孝史、現代地政学への批判的アプローチ — マルチスケールの視点と地政言説の分析、人文地理学会大会、2008年11月9日、筑波大学（茨城県）

〔図書〕（計4件）

①平田オリザ、講談社文庫、十六歳のオリザの冒険をしるす本、2010、450

②山崎孝史、ナカニシヤ出版、政治・空間・場所—「政治の地理学」にむけて、2010、210

③平田オリザ（共著）、PHP研究所、コミュニケーション力を引き出す、2009、253

④平田オリザ（共著）、岩波書店、ことばの見本帖、2009、255

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

平田 オリザ (HIRATA ORIZA)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特別研究員  
研究者番号：90327304

### (2) 研究分担者

山崎 孝史 (TAKASHI YAMAZAKI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：10230400

### (3) 連携研究者

伊藤 裕夫 (ITO YASUO)

富山大学・芸術文化学部・教授  
研究者番号：60329539